

高松・まちづくりふれあいトーク～市民と市長の対話集会～ **第11回会議録**

日 時	平成19年7月27日(金) 午後7時00分～8時40分			
場 所	牟礼支所東館2階第1会議室			
出席者 (市)	市長	総務部長	企画財政部長	市民部長
	健康福祉部次長	病院部次長	環境部次長	産業部次長
	都市整備部長	消防局次長	水道局次長	教育部長
	文化部次長			
	事務局 8人			
市 民	82名			
概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 資料等説明 4 意見交換 			
意見交換 市民	<p>計画の内容は、概ねこれで進めてほしいと思うが、計画期間が8年間というのは長いので、もう少しスピードアップして進めてほしい。それと水不足対策として下水道再生水を利用してほしい。特に西のショッピングセンター等へは優先して廻したらどうか。</p>			
市長	<p>計画期間の8年間は、大きな枠組みであり、具体的には3年ごとに戦略計画を策定し、これを2年ごとにローリングしていくものである。また、建設計画等の計画期間が10年であり、この計画の最終年との整合性を図ることで平成27年としたものであり、実施計画の中で、より身近な計画にしていきたい。</p> <p>また、中水道の利用は、市の都市部で進めており、自己水源対策としては、椋川ダム建設や香東川の伏流水の活用等と併せて下水道処理水の水循環を図るという考え方で取り組んでいる。</p>			
関係部長	<p>牟礼浄化苑では、再生水を利用して高松北高校等の公共施設で循環させている。</p> <p>都心部では、サンポートを始め、46施設に供給しており、新たに天満屋にも供給を予定している。西部のイオンについては、県の流域下水道との連携を図り、ネットワーク化により、湯水に強いまちづくりを進めていきたい。</p>			
市民	<p>不審者や空き巣対策として、自治会で防犯組織をつくってパトロールをしようとしているが、「人と環境にやさしい安全で住みよいまち」に対する支援策として、その場その場に応じた行政のバックアップがあればと思う。</p>			
市長	<p>「地域コミュニティを軸としたまちづくり」については、コミュニティがまとまって、みんなで取り組むことが大切だと思う。新しい事業として、その都度の予算化は難しいと思うが、基本はコミュニティで、みんなで取り組むことが実効性を上げ</p>			

	<p>ることにつながる。</p>
関係部長	<p>コミュニティは地域振興課で対応しており、安心安全活動整備補助金（10万円）があるので、防犯パトロール用品や地図の購入費等の補助として活用してほしい。</p> <p>防犯灯については、年間300灯設置しているが、合併町は傾斜配分により配慮することとしており、牟礼地区は、18年度実績で24灯配分している。</p>
市民	<p>心身障害者等への世話をしている立場として、地震や台風時の災害弱者への対応や仕組みづくりが気になる。高松市は、この支援対策をどうしているのか。独居老人や認知症の人達への支援策も含めて、市の取組を聞かせてほしい。</p>
市長	<p>中越地震の死亡者のほとんどが一人暮らしのお年寄りであった。要援護者リストがあったのに、手が廻らなかったと聞いている。本市では、要援護者リストの作成と併せて、どう手をさしのべられるかを詰めていきたい。</p>
関係部長	<p>高松市としては、これからやっていくという段階にある。</p> <p>本年度中にはハザードマップを作成し、全世帯に配布できるように進めている。</p>
市民	<p>体系の中の「協働」と「行革」は、政策ではなく、目標に格上げすべきでないのか。協働は、共通して取り組むという課題であり、住民サイドは、一人が二足三足のわらじでやっており、色んな人との連携が問われているし、なぜ協働なのか～理解しきれていないこともあって、行政と住民とで、もう一度考え直すべきである。</p> <p>それと行革は、「財源確保」と「無い袖は振れない」という姿勢をもう一度見直すべきである。地方分権とは、お金も地方で調達せよ～ということなら、単に節約するだけでなく、お金が循環し、お金を生み出す仕組みをつくるべきである。</p>
市長	<p>協働のまちづくりに向けた考え方はよく分かる。地域にできることは地域でという基本的な考え方は、横割りの姿勢であり、ここでの政策的な観点からとは、また違ったものであり、手法としての対応策として整理したい。</p> <p>協働と行革の目標化については、検討する。行革は、お金の使い方についての計画であり、総合計画とは別に行財政計画を打ち出している。</p> <p>より良いお金の使い方をするためにコンパクトで持続可能な都市を打ち出して、投資したお金が生きるようなまちづくりを進めていく。</p> <p>また、今後5年間で職員を431人削減していき、民間に任ずという方向も検討している。</p>
市民	<p>自治会として、宮北川ポンプ場の管理(3人)に関わっているが、1人は保険加入があり、2人は保険加入がない状況にある。風水害に対応するため、水門の管理が深夜に及ぶこともあり、ボランティア保険でも加入していただければと思う。保険料は、自治会が出しても良い。</p>
関係部長	<p>河港課と相談の上、別途、返事をさせていただきたい。</p>

市民	消防団活動の出動給付費が大幅に低くなっているが、なぜなのか。
関係部次長	出動報酬については、4時間以内が2,400円で、4時間以上が2,800円となっているが、これは市条例で定めているものである。合併の際、合併町によって報酬額が異なっていたため、高松市の基準に合わせていただいた。
市民	市民との対話集会をやっているが、今後とも在任中は続けるのか。こういう機会を大切にしてほしいし、市民の苦情等に対して、即返答ができる体制を検討してほしい。
市長	今回の対話集会で、直接会話ができてうれしいという声が多い。1年・2年に1回になるかどうかは分からないが、できるだけ続けていきたいし、部長のそれぞれの考え方を知るといった効果も出てきた。市民からの声は、インターネットでも取り組んでおり、色々なチャンネルを使ってアクセスのしやすい窓口から提言をしてほしい。
市民	<p>牟礼にあった色々な行事が無くなってさびしく思っている。「喫茶あんだら話」は、会費百円で、五つのグループが六万寺と老人憩いの家でお年寄りと交流している。</p> <p>わずかのお金で引っ込み思案のお年寄りが外に出る機会にもなり、こうした良いもの（事業）は市全体に広げてほしい。</p>
市長	昭和の大合併は、規模のメリットを重視した小異を捨てて大同につく合併であったが、平成の大合併は、小異を大切にしながら大同につく合併であり、地域資源を活かせるものは活かせるようにしたいと思っている。今後とも最大限、色々な事業を展開していきたい。
市民	<p>エルバートン市との交流を進めて25年になるが、学生の短期留学も毎年やっているし、合併後は民間レベルに移行し、3年間は補助をいただいている。</p> <p>新たな友好都市（帯広市）を増やすのも良いが、これまで培ってきた交流や絆を民間レベルで深めていることも判ってほしい。</p>
市長	自主的な民間交流は支援していきたい。それと帯広市との交流は姉妹都市提携を目指したのではなく、民間交流のきっかけとして行った。実質的に交流活動しているところは、市としても支援していきたい。
市民	<p>美化センターのごみの取り扱いについて、うわさでは、中継所ではなくなると聞いているが、中継所という特性を機能として続けてほしい。</p> <p>使われないのであれば、煙突をすみやかに、安全に撤去してほしい。</p>
関係部次長	中継所への関心が高いと言うのは承知している。しかし、市の収集方法で十分カバーできるなら、中継所は必要ない。市では西部と南部のクリーンセンターで持ち

	<p>込み対応をしているが、家庭ごみの持ち込みは少なく、事業系ごみがほとんどである。</p> <p>牟礼の実態として、出し忘れの対応として存続しているが、今は10kgが50円ですしやすいが、市の料金体系は100kg、1,350円であり、ゴミステーションに出せば40円のごみ袋だけの負担で済むのに、わざわざ持って行って1,350円を払う人はいないのでないか。</p> <p>また、市では祝祭日の収集もやっており、月2回は不燃ごみの収集もしているし、1回・500円で戸別収集の対応もしている。こうした体制を連合自治会の臨時総会で十分説明することで御理解いただきたいし、分別方法については、各自治会毎に説明していきたい。煙突については、ダイオキシンの問題もあり、対応の仕方については、これから検討するという段階である。</p> <p>牟礼は石と窯業の町として栄えてきたが、最近では、外国製品におされている。市の建設工事や公共事業に使ってもらえるようバックアップを期待している。</p> <p>また、牟礼は香川中央都市計画圏として、都市計画に取り組んできたが、都市計画事業が後追いで、土地区画整理事業などはできていない。</p> <p>コンパクトシティの中の範囲で、こうした事業に取り組んでもらえないか。</p> <p>市にとって、石材加工業という新しい地場産業を応援していきたい。中国との厳しい競争の中にあるが、観光と結びつけて「石あかり」や「屋島」等の新しい兆しも見えてきているので、元気づける応援をしていきたい。</p> <p>また、都市計画という場面では、牟礼は都市公園の整備が進んでいる。土地区画整理事業に関しては、ここをという要望等があればお聞かせいただきたいが、新たな事業の実施は、難しいと思われる。</p> <p>また、石あかりを始め、合併によって屋島檀の浦や庵治など地域の魅力が広がっており、頑張っている団体もあるので、今後ともタイアップして活性化に寄与していきたいと考えている。</p>
市民	
市長	